

材とした。研究素材から各場面の「場面の意味」をとり出し、対象特性及び面接目標とつきあわせながら各事例への看護実践の指針をとり出す。事例ごとにとり出した指針の共通性・相違性を比較検討し、看護実践の指針を導きだす。

研究結果：得られた研究素材は、血糖を上昇させる要因が異なる7事例となった。この7事例から抽出した看護実践の指針は44項目で、共通する看護実践の指針として8項目をとり出した。

<共通する看護実践の指針>

- 1 患者の対象特性をとらえ、面接目標を立て面接をする。
- 2 患者が入院回数が多い時は、原因を見出し、医療者側の説明不足であれば再度説明方法を考えて伝える。
- 3 患者が生活の中で自分なりの工夫していることを見出して支持する。
- 4 患者が自分の生活の振り返りができているときは、患者が継続できる方法を生活の中から見出して伝える。
- 5 患者が運動する環境を自分で考えて提示したときは支持する。
- 6 患者が退院後に生活調整の持続について不安を持っている時は、入院での生活調整の意味と自分流を身につけることを説明する。また、家族の支援を見出し励ます。
- 7 患者がまわりを気にせずに自分のことをやっていくことを言った時は支持する。
- 8 患者に入院はチャンスということを伝え、患者が困っている時には、いつでも相談に応じる事を伝える。

患者と共に生活を見直す実践における 看護師の判断過程の分析

－糖尿病教育入院患者の初回面接 事例を通して－

東松ゆみ(基礎看護学)

【キーワード】 糖尿病, 初回面接, 生活指導, 生活調整, 認識

本研究の目的は、糖尿病患者と共に生活を見直すことにつながる看護実践の指針を得ることである。

研究対象は、糖尿病教育目的で入院した患者との初回面接における自己の看護過程である。

研究方法は、糖尿病教育入院患者の初回面接前に得た情報をもとに、対象特性を描いて立てた面接目標と初回面接場面での患者との関わり場面を資料とし、患者によい変化が見られた局面を再構成して研究素